

# I 種 苗 生 産

親ガニは、石川市、沖縄市、勝連町、与那城村、名護市の各漁協から、健全な抱卵親ガニを選別購入し、陸上輸送（1～2時間）した。親ガニは、屋外8 m<sup>3</sup>水槽で流水飼育を行い、夕方から止水、通気のみにして、放卵ふ化させた。また、夜間はワムシを20個/ml以上収容し、幼生がふ化直後から摂餌できるようにした。早朝に浮上遊泳しているゾエア幼生をゴースネットで集め、飼育水槽へ収容した。

親とふ化幼生の状況を表1に示した。6～7月の卵表面には、糸状菌の付着が観察された。5～6月の幼生は、浮上遊泳し、“蚊柱状”の濃密群遊が見られたが、7～9月の幼生は、活力がなく、浮上遊泳する幼生も少なかった。ゾエア1令期（Z<sub>1</sub>）幼生の体重（湿重量）は、5月が103μgで、ガザミとほぼ同じであるが、以後漸減し、9月で約半分になった。

表1 親とふ化幼生の状況

回次	購入月日 月/日	購入と*1 放卵親数	*2 放卵率 %	放卵親の 平均体重 g	*3 ふ化幼生 数万尾	幼生数/親 万尾	幼生体重 μg/尾	備 考
1	5/7~8	38-27(21)	71.1	244	552	26.2	103	幼生は濃密群遊・活力良好
2	6/4~7	79-47(30)	59.5	213	461	15.4	76	幼生は濃密群遊・活力良好、卵に糸状菌付着
3	6/30~ 7/1 7/7~8	104-53(42)	51.0	263	795	18.9	6.2	卵に糸状菌付着
4	8/4~9 8/11~13	202-122 (77)	60.4	174	337	4.4	5.9	浮遊しない幼生が多い
5	9/16	33-23(0)	69.7	157	0	0	55	幼生は、活力がなくほとんど浮遊せず

\*1 購入数-放卵親数（種苗生産に使用した親数）

\*2 放卵親数/購入数

\*3 種苗生産に供した幼生数

幼生の飼育は、上屋付き50 m<sup>3</sup>（水容量45 m<sup>3</sup>）水槽を使用し、給餌基準を図1に示した。飼育水は、25～30 m<sup>3</sup>で幼生を収容し、以後海産クロレラ（1～4 m<sup>3</sup>）または海水を45 m<sup>3</sup>まで注水した。満水後からZ<sub>4</sub>まで5～15 m<sup>3</sup>/日の換水を行った。

Z<sub>1</sub>～Z<sub>4</sub>まで飼育水中のクロレラ濃度を50～100万細胞/mlに維持した。メガロバ期（M）から0.5～2回転/日の流水を行った。ゾエア幼生の計数は、柱状採水法で幼生収容当日から各令期毎に夜間に行った。

餌料\令期	Z <sub>1</sub>	Z <sub>2</sub>	Z <sub>3</sub>	Z <sub>4</sub>	M	C <sub>1</sub>
ワムシ	10～20個/ml					
アルテミア	100～200個/l					
アサリ	15	15	20	100 g/m <sup>3</sup>		

図1 給餌基準

幼生の飼育結果を表2に示した。